

佐久間は負けても言い訳めいたことは絶対に口にしない選手だ。昨年、グライガンワーンに敗れたときも、練習中に傷めた足で試合に臨んでいたのだと後から知らされたことがあった。そして、このアラビアン戦も万全の調子とはほど遠いものだったと、例によって試合後に知った。

☆

試合が始まり、佐久間がムエタイ選手のように前脚でリズムをとっているのを見て、嫌な予感がした。以前、同じようにリズムをとって敗れた選手がいたのを思い出したからだ。その選手は、知らないうちにそうってしまった、と試合後に言っていたが、佐久間は意識的に動きの中にムエタイスタイルを取り入れたのだという。

「相手の蹴りは当たるのに、自分の蹴りは全然当たらないから、帰ってきて練習したんです」

その作戦は当たった。序盤こそミドルとパンチで前に出てきたアラビアンに後退することもあったが、初回からのローが効き始めた3回以降は完全に佐久間のペースだった。4回には左ハイをヒットさせ、最終回はヒジでアラビアンを血塗れにした後、連打でダウンも奪っている。

「もっと早く倒せたのでは？」という意地の悪い質問に、佐久間は「相手はカットするのがうまくて、あんまり蹴れなくて」と笑って答えていたが、心の中ではさぞかしムカついていたのではないと思う。

この後に、「試合の数日前にギックリ腰を起し、欠場してもおかしくない状態」だったということ小林会長から聞かされたときはショックだった。

プロを名乗るスポーツ選手なら、多少の体調不全でも試合を休まず、結果を出すのは当然かもしれないが、格闘技はこの範疇に入らないのではないだろうか。敗れて試合を行なった佐久間には少なからず感動したが、あまりにもリスクが大きすぎる。欠場する勇気もプロの姿勢として必要では、と言ったら佐久間はなんと答えるだろう。(M)

ラジャの敗戦から3週間後… タイ帰りの佐久間が得た勝利は 危険と表裏一体の際どいものだった



最終回、佐久間のパンチが何度もアラビアンを捕らえた。最後までダメージを蓄積させることなく試合を終えたが……



○アラビアンは初回から積極的にパンチを狙って行ったが、後半は佐久間に圧されていた。



○タイ帰りに身に付けたという国技の蹴りから、この日はよく入っていた。

■参考記録

	(ジャック) 中村	(ジャック) 少	(ジャック) 山中
ラウンド	1 R 10:10 2 R 10:10 3 R 10:10 4 R 10:9 5 R 10:8	1 R 10:10 2 R 10:10 3 R 10:10 4 R 10:9 5 R 10:8	1 R 10:10 2 R 10:10 3 R 10:9 4 R 10:9 5 R 10:8
TOTAL	50:47	50:47	50:46

BURNING III

全日本キックボクシング連盟
4月29日 東京メッセ昭島

▼日本VSタイ国際試合(58kg契約)3分5回戦
全日本フェザー級王者

佐久間晋哉

(八王子FSG/174cm/57・9kg/26歳)
12勝(7KO)7敗1分

判定
3-0

タイフェザー級
アラビアン・ゲッセルパー

(タイ/160cm/56・9kg/26歳)
45勝(14KO)29敗10分

▼全日本ウェルター級選手権試合3分5回戦

王者

鈴木達也

(船橋道場/175cm/66・45kg/28歳)
6勝(3KO)4敗3分
*鈴木が初防衛に成功

ドロー
1-0

挑戦者・同級1位
大谷浩二

(登壇会/180cm/56・3kg/26歳)
12勝(3KO)4敗3分

昨年2月、鈴木は大谷を2回KOに降し王座に就いている。両者4度目の対決は、前回の苦い経験から鈴木は強打を警戒した大谷がパンチの距離になると徹底的に間を詰めて首相撲にもっていき、鈴木はポイントを決さないもの苦しい展開に。最終回は鈴木は連打が大谷を捕らえているように見えたが判定はドロー。初防衛を果たした鈴木だが「ダメージがないから勝っていると思った」と残念そう。5度目の対決はあるのか？



○スリリングな展開が予想されたが、決め手なく判定となった。

○最終に首相撲を仕掛けられ、「大谷選手とはあまり噛み合わないんです」と鈴木は苦しい。

■参考記録

	(ジャック) 中村	(ジャック) 石川	(ジャック) 山中
ラウンド	鈴木:大谷	鈴木:大谷	鈴木:大谷
1 R	10:10	10:10	10:10
2 R	10:10	10:10	9:10
3 R	10:10	10:10	10:10
4 R	10:10	10:10	10:10
5 R	10:9	10:10	10:9
TOTAL	50:49	50:50	49:49

